



おokay 美術考古館だより

2020.3
vol. 9

共通入館券のご案内

岡谷の美術館・博物館めぐりには 共通入館券がおトクです!!

共通入館券は
右記の5施設で
お使いいただけます。

- 市立岡谷美術考古館
- イルフ童画館
- 旧渡辺家住宅
- 岡谷蚕糸博物館・シルクファクトおokay
- 旧林家住宅

共通入館券料金表

	2館	3館	5館
一般	660円	920円	1,120円
高校生	610円	710円	920円
中学生	310円	510円	610円
小学生	310円	360円	410円
有効期限	発行日から3日間	発行日から3日間	発行日から1年間

市立 岡谷美術考古館



○休館日/毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
 ○開館時間/10:00～19:00
 ○入館料/おとな(常設展)370円(特別企画展は別途料金)
 こども(常設展)160円(特別企画展は別途料金)
 ※要訪郡内在住/在学の小・中学生
 岡谷市内在住/在学の高校生は無料



蚕糸博物館・シルクファクトおokay



近代の岡谷の一大産業、製糸業の歴史がわかる博物館です。併設された御宮坂製糸所では、繭から糸をとる様子を見学することができます。

○休館日/毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
 ○開館時間/9:00～17:00(動態展示は16:00まで)
 ○入館料/一般510円、中高生310円、小学生160円

江戸時代の武家屋敷 旧渡辺家住宅



高島藩士渡辺家は、城下町ではなく村に住んだ珍しい散居(さんきょ)武士の旧宅で、18世紀に建てられました。この家からは、明治以降3人の大臣が生まれました。

○休館日/3月20日～11月3日の月・木・金曜日、11月4日～3月19日
 ○開館時間/10:00～16:00
 ○入館料/おとな320円、こども160円

童画家 武井武雄の世界 イルフ童画館



大正から昭和にかけて、子どもの心にふれる絵を描き、「童画」という言葉を生み出した武井武雄の世界に浸ることのできる美術館です。

○休館日/毎週水曜日、12月29日～1月3日
 ○開館時間/10:00～19:00
 ○入館料/一般510円、中・高校生310円、小学生160円

一歩足を踏み入れれば 旧林家住宅



一山力(いちやまか)林製糸所の経営者、初代林国蔵の邸宅。明治30年代～40年にかけて建てられました。洋館付きで迷路のように広く、豪華でレトロな雰囲気が味わえます。

○休館日/毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
 ○開館時間/3月～11月 9:00～16:30
 12月～2月 10:00～15:00
 ○入館料/おとな580円、こども270円



交流ひろばや市民ギャラリーで個展をしませんか? 興味のある方は、当館までお気軽にお問い合わせください。当館ホームページ <http://www.okaya-museum.jp/> から「利用案内」をダウンロードいただけます!!

例えば、5日間 1日9時間使用し、ご来場された方に無料で作品を公開する場合は...

◆交流ひろば

・使用料金630円×3区画×5日間 = 9,450円
 ・空調設備費60円×9時間×5日間 = 2,700円
 合計12,150円



◆市民ギャラリー

・使用料金5,240円×5日間 = 26,200円
 ・空調設備費160円×9時間×5日間 = 7,200円
 合計33,400円



Okaya Art and Archaeological Museum NEWS

《縄文時代の復元家屋が完成!!!》

縄文時代の竪穴住居を展示しました。手作りですが、中に入ることができます。当時はどのような生活? 土器はどのように使っていた? なぜ、竪穴なの? などなど、復元家屋に入りながら考えてみませんか。ご来館をお待ちしております。



平成31年度 令和元年度 特別企画展・収蔵作品展・考古企画展
 若手アーティスト育成公募展
 イベント&ワークショップ
 文化財担当から
 館長のコラム
 共通入館券・貸しスペースのご案内



岡谷美術考古館だより vol.9

発行/令和2年3月30日

発行者/市立岡谷美術考古館 〒394-0027 長野県岡谷市中央町1-9-8 TEL.0266-22-5854/FAX 0266-22-5856
<http://www.okaya-museum.jp/> E-mail: art@city.okaya.lg.jp
 制作/中央印刷株式会社 岡谷工場 〒394-0048 長野県岡谷市川岸上1-1-20 TEL.0266-22-5551(代)



市立 岡谷美術考古館

美術収蔵作品展

収蔵作品展 I

『本物を見よ 山田郁夫展』

平成31年4月25日(木)～6月16日(日)
「本物を見よ、本物を求めよ」が口癖だった水彩画家、山田郁夫の作品と制作の背景・思想をご紹介します。



収蔵作品展 II

『没後3年 織田昇展』

令和元年10月26日(土)～2年1月5日(日)
「東洋の芸術観」「無」の哲学に迫るべく制作を続けた洋画家、織田昇の70年の足跡を振り返りました。



収蔵作品展 III

『春をいろどる 花の絵画展』

令和2年3月5日(木)～5月10日(日)
収蔵作家によって描かれた花の絵画と、モチーフとなった春の訪れを感じる花をご紹介します。



美術特別企画展

炎の力 —恵みと脅威の表現—



令和元年6月20日(木)～8月16日(金)
炎が持つ「恵み」と「脅威」の両面に着目し、炎の表現や、炎を用いて制作した美術作品、古代の土器などをご紹介します。

没後5年 辰野登恵子展 —色彩と深化のプロローグ—



令和元年8月20日(火)～10月22日(火・祝)
日本の現代美術を牽引してきた岡谷市出身の画家、辰野の高校時代から晩年までの作品を通して、その色彩表現の原点を探るとともに、画業を振り返りました。

文化財担当から

日本遺産認定一周年を記念し、様々なイベントを開催!

2018年5月に「星降る中部高地の縄文世界」が日本遺産に認定されて早一周年。当館では様々な記念イベントが開催され、たくさんの方々に縄文の魅力を知って頂ける一年となりました。

岡谷 縄文シンポジウム

早稲田大学考古学研究室教授の高橋龍三郎先生ほか多数の講師を招き、縄文時代から受け継がれる「モノづくりのDNA」をテーマにシンポジウムが行われました。パネルディスカッションでは、専門家の皆さんによる熱い議論が繰り広げられました。



岡谷・下諏訪親子縄文探検ツアー

昨年度に引き続き、下諏訪町と合同で縄文探検ツアーを開催しました。たくさんの小学生が参加し、諏訪湖博物館や美術考古館での説明に興味津々の様子でした。



考古企画展

県宝や日本遺産の縄文遺物を大公開!

2018年の5月には日本遺産に認定、また9月には県宝に指定され、岡谷市では縄文ブームが到来しました!縄文ブームを引き継ぎ、認定、指定された縄文遺物の公開展示を行い、多くの方にご来館いただき、岡谷から出土した土器や土偶など多くの遺物を紹介しました。



県宝指定「信州の特色ある縄文土器」

信州の特色ある縄文土器として、茅野・塩尻市など6市5町7村で計158点の縄文土器が長野県宝に指定されました。岡谷市では19点が県宝に指定され記念展示を開催しました。模様や装飾、造形など、約5千年前の美術作品と言っても過言ではありません。どのような感情や環境で制作したのでしょうか。見れば見るほど思いが募ります。



日本遺産

「星降る中部高地の縄文世界」—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を物語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。2018年5月に長野・山梨県の14市町村67件の構成で日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」に認定されました。岡谷市では、7遺跡7件が認定され記念展示を開催しました。土器や土偶などの高い芸術性に驚かされ、また黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができました。



美術考古館では、毎月こどもから大人まで楽しめるワークショップを開催しています。

イベント & ワークショップ

今年度行われた一例をご紹介します。

日達れんげさん
切り絵ふりんと教室



当館 花岡克行館長の
こどもとおとなの工作教室
縄文風ネームプレートづくり



信濃刀画の会の皆さん
エコで楽な
木版画を



伊東美和さん
チョークアートで
クリスマスツリーを
描こう



若手アーティスト育成公募展を開催!

岡谷市出身及びゆかりのある20～30代の若手作家の公募を行い、展示会を開催しました。第2回目の作家は、クボタノブエ(久保田信恵)さん。展示名は「Powder Snow in March」です。水彩画のようににじみをもつ色面や点描で構成され、美しい色合いと透明感のある作品が展示されました。今後も、クボタノブエさんや岡谷市出身の若手アーティストの応援をぜひお願いいたします。



館長のコラム

「糸」を使ういろいろな字が出来ます。系、係、絆、結、絡、繋などです。それらは、「つながり」という意味です。



美術考古館は今年もささやかですが、その糸でいろいろな「つながり」をつくってききました。

- ◆「双燈社展」では、思いがけずたくさんの西堀の人たちとつながることが出来ました。またイルフ童画館とも版画をテーマに共同開催でつながり、さらに「刀画の会」や「児童版画展」ともコラボすることが出来ました。
- ◆「辰野登恵子展」では、岡谷とのつながりを紹介、会場は彼女とその遺族と共に歩んだ人たちと鑑賞者がつながる場所となりました。
- ◆星降る日本遺産となった黒曜石からはじまり、土器・土偶、縄文(復元)家屋などの時代を一本のつながりでみた時に、信仰ともいえるべき無垢な創造力を感じることがあります。さらに、「炎の力」の糸でつないでみると、縄文から平成までの連綿たる岡谷の「ものづくり」の心意気も見えたような気がします。
- ◆そして「若手アーティスト育成展」では、若い作家と、郷土岡谷の人たちが未来に向けて、絆の糸を結んでほしいと心から願うのです。

いつも「つながり」を大切にしてきました。関係の糸、そして人脈の系譜です。まだまだあります。地域とのつながり、学校との、美術会との…。これは次号につなげます。

